

5.18弾圧に
対して

反弾のアモル!

全學の皆さん、5.18学友ら名の不当逮捕以来、大學当局一警察権力一体となつた弾圧はすさまじいものであった。連日に渡る機動隊の京大周辺への配備、我々の集会、デモに対する監視行動。しかし、このような弾圧に対する反撃は今や開始されているといつ事を、皆さんに報告しておきたい。6名の学友は獄中で皇熙非転向の斗争を貫き通し、我々のもとへ全員奪還された。反弾署名は現在續々と集中されつつある。今回の事態について、教養部の敵クラスでクラス討論会もたれようとしている。我々は、これらの弾圧に対する反撃の集約点として6.2全學集会を提起する。

☆5.18弾圧は、何を意味するか。

我々は昨年より、負担区分強要（学生に対する水光熱費支拂い強要）を目論む大學当局に対し、大衆的な運動をもってこれと対決してきた。今回の弾圧は、この過程のなかで、我々からち得てきた斗争の政治的弊化に対する敵の攻撃である。我々が負担区分群斗争のなかで、明らかにしてきたことは何であつたか。それは尊に対する負担区分強要が国家財政の危機の名の下、強引に推し進められている行政改革＝マルショウ支配の危機の人民への転嫁の一環としてあるといつこと、すなわち長期に渡る不況にあぐねマルショウジーがその空破の道を人民からの強引奪い求めようとしている、といつ事実であつた。マルショウジーは階級矛盾を緩和する装置としてあつた“福利厚生施設”を、自らの手で潰さざるを得ない程までの危機へと追いやられてしまっているのである。

それ故、我々の生活と防衛のための負担区分群斗争は個別構成、学園といつ構内ののみで完結するものとしてあり得なかつた。大學当局との不屈の斗争を貫くと同時に、他の諸人民斗争との結合を壳ち取る中で、尊斗争の階級的意味を不斷に自己直していくことが我々に求められたのである。

5.18弾圧は、このような作業を、5.22三里塚、5.23独山斗争への引きを通じて担つてこいつとした矢先にかけられ

た弾圧であった。当局一権力の意図したものは、昨年走の負担区分群の中につくられた我々と当局との力関係（5年ぶりの学生部長団交戦取）を一挙にくつがえすとともに、尊斗争の政治性を解体することであつたのだ。

しかし、彼らの自尊は大きく崩れています。我々の主には弾圧をバネに、逆に燃え広がりつつあるのだ。

☆反弾全學署名の集中を！

5.18以来の機動隊常駐は、尊生のみに向られたものではなく、全ての学生に対して向けられたものである。我々が現在の教育のあり方、社会のあり方と共に考え、团结を深めていくことに対し、権力は攻撃を加えようとしているのだ。彼らは暴力を前面におしたて、あるいはそれを背後にちらつかせつつ、尊生の母結区萌芽のうちに、つみとろうと弾圧を加えてくる。

現在、我々は反弾全學署名を行つてゐる。今回の弾圧の意味するものを見極め、この署名にぬけてこつて、更に、全ゆるクラス、サークルで今回の弾圧についての討論を引き起こそう。

☆6.2全學集会へ。

5.18弾圧を仕掛けた大學当局一警察権力の意図は、我々は着実に粉碎しつつある。このような反弾の斗争を、6.2全學集会へと集約しよう。

我々の主は前進可ねばする程、敵から引きだす反動は大きくなるだろう。しかし、我々は一切の弾圧に屈することなく、主を貫き通す。1の弾圧には10の反撃を！これが我々の合言葉だ。

尊斗争のから得てきた政治的地平と、全學の学友との強固な連帯を再確認しよう！

自らの尊崇プランの為に尊友を権力に剥ぎ渡す当局を追撃しよう！

6.2全學集会に結集しよう！

最後の勝利まで共に歩こう！

1983.5.30

5.18尊友ら名逮捕・弾圧糾弾

能率学者自治会

6.2全學集会